

# 第40回 アストロトーク



京都千年天文学街道

講演 13:30 - 14:30

## 『冬の満月はなぜ高いのか』

京都情報大学院大学教授 作花一志 氏

4次元宇宙シアター 14:45 - 15:30

## 『3Dメガネでみる宇宙のすがた』

～太陽系の惑星のいろいろな衛星～

京大天文台 天文普及プロジェクト室室長/

京都情報大学院大学 准教授 青木成一郎 氏



2020年3月7日(土) 13:30 - 15:30

(受付13:15から)

開催場所： 京都大学総合博物館[百万遍下ル] 3階講演室

参加条件： 小学生以上（小学生は保護者同伴）

参加費資料代： 小中学生500円、一般（高校生以上）1,000円

定員： 45名（先着順）

申込方法 3月5日（木）申込み〆切

・インターネットの場合は <http://www.tenmon.org/>

・お電話の場合は 075-823-3640 (10:00-18:00 受付)

株式会社ビューティフルツアー（担当：ウルシハラ）

別途、博物館の入館料が必要です。

小中学生200円、高校大学生300円、  
一般400円

障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの  
方1人、70歳以上の方は無料（要証明）

※博物館の事情により変更となる可能性があります。



月の表側の写真

(画像提供: NASA/Bill Ingalls)



木星の衛星エウロパの写真

(画像提供: NASA/JPL-Caltech/SETI Institute)



主催 認定NPO法人花山星空ネットワーク

共催 京都大学総合博物館、京都大学大学院理学研究科附属天文台

後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会

協力 株式会社ビューティフルツアー、京都情報大学院大学、株式会社HERO

<http://www.tenmon.org> (京都千年天文学街道ホームページ)

## ・ アストロトークの概要

- － **講演の概要:**「寒空をふと見上げると満月が天空高く見える。冬の太陽は低いのになぜ月は高いのだろうか?」という疑問を持たれたことはないでしょうか。夏では、春では、また秋では、どんな満月でしょうか?こんな素朴な疑問から太陽・地球・月の運動について重要な法則が得られます。
- － **4次元宇宙シアターの概要:**国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクト提供のMitaka に京都大学独自の天文映像を織り交ぜ、3Dメガネをかけて立体的に見ながら、宇宙のすがたを紹介します。地球を離れて、太陽系を飛び出し、銀河系を抜けて、宇宙の地平線まで見ていきます。今回は、太陽系の惑星のさまざまな衛星を主な話題としてお話しします。

## ・ 講演者紹介



作花 一志(京都情報大学院大学 教授):講演担当

- ・ 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。専門は古天文学。歴史に残された天文記事を計算で再現し天変と言われた現象や過去から未来の惑星直列や小惑星ニアミスなどを調べている。また、天文教育普及研究会にて編集委員長を長く務めた。著書「天文学入門」(オーム社)「歴史を揺るがした星々」「天変の解説者たち」(恒星社厚生閣)など。



青木 成一郎(京大天文台 天文普及プロジェクト室室長/

京都情報大学院大学 准教授):4次元宇宙シアター担当

- ・ 東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了(博士(理学))。専門は宇宙プラズマ物理学。天文教育普及にも力を入れており、4次元宇宙シアターによるイベント運営多数。「京都千年天文学街道」実行副委員長。「平成25年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞 理解増進部門」受賞。著書「東日本大震災と災害周辺科学」(古今書院)など。

## ・ 京都大学総合博物館への行き方

### 総合博物館周辺の地図



#### ■京都市バスをご利用の場合

JR/ 近鉄京都駅から17,206 系統

阪急河原町駅から3,17,31,201 系統

地下鉄烏丸線今出川駅から201,203 系統

地下鉄東西線東山駅から31,201,206 系統

百万遍(ひやくまんべん)停留所で下車徒歩約2 分

#### ■京阪電鉄をご利用の場合

京阪本線“出町柳(でまちやなぎ)”駅で下車、今出川通りを東進し、百万遍(ひやくまんべん)交差点を南に折れてすぐ(出町柳駅から徒歩15 分)

京都千年天文学街道では、京都の天文関連史跡をまちあるきで巡りながら、京都での平安時代から現代に渡る千年の天文観測及び天文学研究とそのつながりを知る「京都千年天文学街道ツアー」を開催しています。詳しくは、京都千年天文学街道のチラシ、またはホームページをご覧ください。



京都千年天文学街道ホームページ

<http://www.tenmon.org>

QRコード(携帯電話など)→

